

全国一般神奈川

発行者

全国一般労働組合全国協議会神奈川

横浜市中区翁町 1-5-14

新見翁ビル4F

TEL. FAX.

045-319-4391

第46回 沖縄平和行進に参加！

2023年の沖縄平和行進は、新型コロナウイルスが収まりつつあることから、参加人数も増え、行進距離も長くなり、活気のあるものとなった。5月13日、沖縄本島では中部基地コースが約1200名、南部戦跡コースは約700名が参加したとのことであり、初参加の若い人も多かった。今年も全国一般が参加する三連産団では、第二次世界大戦の激戦地である南部コースを行進した。前日12日にはひめゆりの塔と旧海軍司令壕を視察し、バスガイドさんからは鉄の暴風雨と呼ばれる激しい攻撃のことや戦後アメリカに遺骨収集を禁じられ未だ多くの遺骨が残されていることを聞いていた。改めて沖縄戦の悲惨さと戦争の愚かさを痛感しながら行進すると、沿道の慰霊



碑・塔の多さに驚かされた。戦争がなければ失わずに済んだ多くの命を思い、再びこの地を戦場にしたいはならないと、「命どう宝」「日米軍事強化を許さないぞ」と、この時期に珍しく好天となった沖縄の空に力強くシュプレヒコールを響かせた。ひめゆりの塔や平和祈念公園に見学に行く修学旅行生とすれ違つて手を振りあつた。彼らの心に平和の尊さが刻まれることを願う。

軍の損失を防ぐため自衛隊を使い捨てることを想定しているのだ。この動きを止めるために私たちにできることは「他人事と思わない」という提言もなされた。

5月14日の沖縄コンベンションセンターでの「平和とくらしを守る県民大会」で「復帰51年5・15平和とくらしを守る県民大会宣言」が採択された。大会の後には、激戦の爪痕が残る嘉数高台公園から普天間基地を視察した。事故の多いオスプレイが何機も停まつていた。美しい大浦湾から辺野古の新基地建設現場を見るとコロナ禍中でも沖縄の民意を無視してここまで工事を進められてしまったのかと、胸が痛くなった。嘉手納基地の展望台から輸送機の着陸の騒音を体感した。中部ではバスの車窓に目をやると途切れることなく米軍基地が見えた。

旧海軍司令壕でガイドしてくれた屋良所長の問いかけを思い出す。「太田司令官は『沖縄県民斯克戦へリ 県民ニ対シ後世特別ノゴ高配ヲ賜ランコトヲ』と海軍次官に電報して自決したが、今の沖縄に日本政府から高配があるのか？」答えはNOである。高配どころか最も基地負担は大きい。

羽田から飛行機で2時間以上離れた島の問題はともすると他人事になってしまふ。しかし沖縄の犠牲を良しとすることは日本が犠牲になつても構わないとする考えを受け入れていることと同じである。本土復帰した5月に日本全国から沖縄に集まり平和行進をすることは大きな意義があり、感じたことや学んだことは参加者の心に深く刻まれる。この経験を活かして平和のために行動を続けよう。(清水真)

- 今年で2回目の参加です。去年のコースとは違い南部コース糸満市役所へ平和祈念公園までのコースで、のどかな街並みを歩きましたが、至る所に戦争の犠牲になった方々の慰霊碑が有りました。南部地区が激戦地だったことを改めて実感しました。
- 初めて参加しました。南部コースの平和記念公園まで約10kmの道のり。沿道にいる沖縄の方の「ありがと」の声で最後まで頑張れました。来年以降も参加できたらと感じました。(W)
- 平和行進中、道の脇に無数の慰霊碑を眺めながら78年前の事を考えました。そして現在も続く基地問題を自分の目で見ました。これから身近な人間に伝えていくことが大切だと感じています。(鈴木)

スケジュール

- 6月14日 17時30分 桜木町 JALキャラバン行動
- 6月14日 20時 事務所LINE 神奈川合同支部会議
- 6月15日 12時 新百合丘 らぼおの樹会議
- 6月15日 14時 空づ 総生会団体交渉
- 6月17日 12時 羽田空港 JALスタンディング行動
- 6月18日 10時 事務所 機関紙発送作業
- 6月18日 14時 寿公園 寿労働相談
- 6月19日 19時 事務所 第9回担当者会議
- 6月20日 13時 横浜 フジメタル団体交渉
- 6月21日 17時30分 新杉田 最賃署名行動
- 6月22日 15時 平労会館 FF1500実行委員会
- 6月22日 19時 事務所 県共闘事務局会議
- 6月24日 19時 事務所 神奈川労働相談センター会議
- 6月25日 14時 事務所 第9回支部代表者会議
- 6月28日 13時 ワークピア 中央労金総会
- 7月1日 15時 厚木アミュー 郵政会議
- 7月11日 19時 事務所 第0回執行委員会

「くらしを守ろう」 最賃アップ行動参加報告



新杉田駅頭情宣活動を終えて

この5月からは、新型コロナウイルスの取り扱いが、季節性インフルエンザと同じ「5類」になり、これまでのような外出自粛やマスクの着用は個人の判断とされました。やつと気兼ねなく食事会や歓送迎会、そして旅行などに出かけられるという思いではないでしょうか。しかし、生活は火の車です。食用油36%、パン9%、牛肉13・5%、ガス代は21・9%の上昇と値上げラッシュ。昨年10月にアップした最賃31円分や今春闘

で闘い取った賃上げは、物価上昇分で消えてしまい、実質賃金は目減りしています。とても気軽に出かけるなど思えない描くことはできません。このままでは私たちの生活は守れません。春闘での賃上げ闘争は欠かせませんが、非正規労働者が労働人口の4割を占めている状況では、最賃アップの取り組みも重要です。

組合は、神奈川県共闘の仲間と共に5月23日新杉田駅前で、「神奈川県地方の最低賃金を直ちに1500円以上に

物価上昇が目立つ主な品目



引き上げ、全国一律最低賃金制度の確立を求め、街頭情宣と署名行動を取り組みました。当日は小雨が降っていましたが、夕方5時駅前に集合した仲間は、全国の最賃表が載ったチラシをテッシュとともに配りながら、署名もお願いしました。チラシの受け取りはよく、ありがたいことに、私たちの活動に「頑張れ!」と応援してくれる労働者や署名も頂きました。今後は、10月の最賃改定に向けて、最賃アップを求める行動が増えます。最賃1500円を目指し共に闘いましょう。(佐藤)

5・23狭山再審を 求める市民集会 勝ち取る!

無実を叫び60年!袴田再審に続け!
東京高裁は事実調べ・再審開始を!



私たちの 2023 春闘

今年は早々に2月27日に要求書を提出し、3月24日に回答書を受け、4月7日に団体交渉しました。それを踏まえて、賃金は基本給一律2100円の賃上げ、そして「物価高騰に関する手当2000円」として妥結しました。物価手当の財源は、政府から病院へ支給されている22年度の補助金で、今後継続するかどうかは未定です。

団交席上で私達の働く栄養科の一部委託を考えている。との発言がありました。組合としては継続討議の課題であると伝えました。

精神科病院は、「滝山病院事件」が起きたように、虐待・閉鎖が続いていることが再び明らかになりました。

自主連帯多摩川病院労組

した。それを生み出した「高齢・合併症」を抱える人たちの医療体制も整っていない事態、長期入院者が退院できる地域の体制も、依然として整っていない。

病院経営者は「入院者数の減」「空きベッド拡大」による「病院経営危機」を言い、収入増の為に「医療観察法」などの「監獄社会」に手を貸す方向に足を踏み出そうとしています。

「滝山病院事件」のあとでも「滝山病院」は何も変わらうとしていない。「滝山病院」だけでなく、日本の「精神科病院」の現状は、何も変わらない、変えようとしていないのが今の現実です。皆さんと共に力を合わせてこの流れを食い止めたいものです。(田中)

5月23日降りしきる雨の中、日比谷野外音楽堂には多くの部落大衆、労働者、市民が集まり、狭山事件の再審を求める市民集会が開催されました。集会は部落解放同盟・西島委員長挨拶によって始まりました。石川一雄さんからは「私は元気で闘っています。冤罪が晴れるまで応援をお願いします」と再審開始に向けた決意が語られました。続いて狭山弁護団の北中事務局長から審理の状況報告が行われ、片岡部落解放同盟副委員長からは「第3次再審闘争で数々の新証拠・新鑑定を提出し

事実調べを求めた、何としても再審を勝ち取る」と基調の提案が行われました。そして、3月に再審開始が決まった袴田巖さんの姉・袴田ひで子さんから「今度こそ石川さんです、皆で支援を!」との訴えがなされました。集会では各界からの連帯挨拶・決意表明が行われ、集会アピールが採択されました。最後に部落解放同盟・赤井書記長からの行動提起と閉会の挨拶・団結カンパニーで集会を終えました。集会後、デモ行進が行われ、狭山差別裁判糾弾!再審開始を!と訴えました。(河野)